

ソーラー通信



発行/株大潟村カントリーエレベーター公社 2026.4

No.368

カントリー農業通信クラブ「CACCO」

〒010-0444 秋田県南秋田郡大潟村字南一丁目60番地 TEL 0185-45-2215・FAX 0185-45-2280
お米注文専用：☎0120-45-3388 インターネットURL：https://www.ogata-ce.co.jp/
営業時間▶8:30~17:00 休業日▶土・日・祝祭日



主な内容

- 「塚田農場プラス」様
キャンペーンに行ってきました!.....②
- 地道な春作業.....②
- 座談会.....③
- 春作業 土づくり.....③
- 潟吉君の田んぼ日記.....③
- クイズまるごと大潟村.....④
- 編集後記.....④



表紙写真：3月24日撮影

いま、大潟村は

令和8年3月24日に大潟村、大潟村カントリーエレベーター公社、東洋ライスの三者による、包括連携協定の締結式が行われました。

今後は、大潟村産の有機米を「金芽米」に加工し、村内の学校給食で提供することで子供たちの健やかな成長を支えます。また、金芽米の生産過程で生まれる有機質素材「米の精」を田んぼの肥料として活用し、環境に優しい持続可能な農業を実現します。

お米の可能性を活かしたこの挑戦に、今後も注目です。

お客さまの声から...



◎ ~暴風雪の合間の写真~とても美しく感動しますが、生活の厳しさが伝わる写真でもあります。夫婦二人の生活なのでお米がなかなか減りませんが(笑)感謝しながら噛み締めて頂きたいと思います。 東京都 砂本様

★公社より

- ・いつもお米をご購入くださりありがとうございます。
- ・厳しかった冬も終わり、大潟村にもいよいよ春がやってきました。秋の収穫に向け、春作業の始まりです。これからも、皆さまにご満足いただけるお米をお届けできるよう努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

金芽米 おた飯キャンペーン

玄米の栄養素を残したおいしい「金芽米」をこの機会にぜひお試しください。

2kg

通常 1,890円(税込)が 期間限定で 1,620円(税込)。

限定価格での発送は、

~~令和8年3月26日(木)~~と令和8年4月27日(月)の2回のみ!

終了しました

※詳しくは担当者までお尋ねください

ご注文専用

TEL 0120-45-3388 (8時30分~17時00分受付)

FAX 0120-65-2280 (24時間受付)

MAIL ce-kome1@atlas.plala.or.jp (24時間受付)

ご不明な点は上記ご注文専用までお問合せください。

株式会社 塚田農場プラス様



交流事業

株式会社 大瀧村カントリーエレベーター公社

キャンペーンに行ってきました!

3月11日に、お取引先「塚田農場プラス」様との交流事業が行われました。

東京都内のデバ地下、駅構内でお弁当の販売をしている塚田農場様にて、生産者が各店舗に分かれ、販売のお手伝いをしてきました。

各種お弁当に使用されているカントリー公社のお米と、塚田農場様のこだわりの商品をPRするために、一昨年から行っています。

多くのお客さまが来店し、笑顔で楽しそうに会話しながらお弁当を選んでいる様子が、とても印象に残りました。

そして今回はなんと…! テレビ朝日の「グッドモーニング」で紹介されました! ✨生産者のインタビューも放送されていますので、ぜひチェックしてみてくださいね!

今後もこのような活動を続け、より多くの人にPRしていきたいと思えます。



インタビュー風景

地道な春作業



日はまだ短く風も冷たい中ですが、雪解けがいつもより早かったり晴天の日が多かったりしたため、春作業は意外とはかどった3月でした。雁がおおかた帰っていったのを見届けて、小麦畑に張った鳥除けの糸を回収したり (写真1)、サビサビになってしまったハウスの骨組みを保護するために防錆ペンキを塗ったり (写真2)、種子を水に漬けて芽出しをするための準備として、重量を均等に配分してネットに詰めたり (写真3) …、作業自体は地味なものの、取り掛かると案外時間がかかる作業を黙々と進めていきます。





座談会

2月26日、座談会が開催されました。

- 主な内容は
- 令和7年度の粉摺り状況と販売実績報告
 - 令和7年産米の需給環境について
 - 令和8年産作付計画の集計結果に基づく情報提供
 - その他 でした。



普段利用しているカントリーで各作物の販売までの進捗を知ること。一番身近な集出荷施設であるカントリーでどの作型（一般米～有機栽培米など）の引き合いが大きいのか。など今後の営農を考えるうえで重要な情報交換が行われていました。ここでは書ききれないほど活発に意見交換が行われていて、「なるほど～」など感心することしきりでした。まだまだ農業経営者としての修業が足りないと思われました。この座談会をバネに春作業に励みたいと思います。



最近の大潟村は春らしい穏やかな天気が続き、田んぼの雪も完全に姿を消しました。我が家の田んぼの様子も見ておこなくはと、軽トラックで向かうと…なぜか田んぼに大量の砂利石が入り込んでいました。

田んぼに沿って伸びている農道の砂利が入り込んだとみられますが、車が走っただけで飛ばす石とは考えにくい量です。考えられるのは、農道の雪を重機で除雪した際に、うちの田んぼに入ってきた可能性です。これもまた、我が家では、心当たりがありません。

「土地改良区」という農地まわりの共有部(排水路や用水路、田んぼと排水路の間の土地など)を管理しているところに連絡してみるも、除雪をしたり、砂利を動かしたりはしていないとのこと。

農道は大潟村の管理下ということで、3月16日現在は村役場の担当部署に問い合わせしているところですが、議会対応で忙しいご様子…。どうなることやらの春が始まりました。

By 三代目潟吉



春作業 土づくり

雪が消えてきて春めいてくると春作業が始まります！今回は土関係の作業を紹介します。

まずは土を購入して農舎に運びます。農業用土を販売しているところからダンプに積んでもらい農舎内に運び込みます。この土で①肥料と混ぜた床土と②ふるいにかけて細かい土をより分けた覆土を作ります。育苗箱に床土を敷き、種もみを蒔き、灌水して覆土をして苗を作ります。種まき作業の前に床土と覆土を必要なだけ用意します。

床土は攪拌機に土と肥料を投入、攪拌した後、排出して積んでおきます。ここでは一度に育苗箱50枚分の床土を作れるので、必要な量になるまでこの作業を繰り返します。

覆土はふるいに土を入れて覆土とゴロ(粒の大きい土)に分けます。こちらも必要十分な量になるまで繰り返します。ゴロは田んぼに穴が開いた際に埋める時などに使用します。

農作業の始まりからなかなかの重労働ですが、冬の雪かきはこの作業のための準備運動だったのかもしれませんが、ともあれケガの無いよう、無理なく仕事を進めていきます。



農舎に土を運んだところ



床土づくり

右から土と肥料を入れて左に排出します。



覆土づくり

クイズ 大潟村

～QUIZ from OgataVillage～

Q 春の訪れを知らせてくれる山菜に、秋田の方言で「ばっきゃ（ばっけ）」と呼ばれるものがあります。独特の香りとほろ苦さが特徴の山菜で、天ぷらや和え物にすると美味しいです。さて、この山菜はどれでしょうか。

つぎの①②③のなかから選んでお答えください。

- ① たけのこ
- ② ふきのとう
- ③ じゃがいも

令和8年5月15日必着

- ハガキまたはメールにてご応募ください！
クイズ専用メール ce-rice-eigy@ogata-ce.co.jp
- 正解者の中から抽選で10名の方に大潟村特産品を進呈いたします。
- 当選者の発表はソーラー通信
令和8年6月号に掲載いたします。

応募方法	応募先
4月号 ①氏名 ②年齢 ③〒 住所 ④電話番号 ⑤答え	〒010-0444 大潟村カントリー エレベーター公社 「クイズまるごと大潟村」係
ひとこと	秋田県南秋田郡大潟村 字南一丁目60番地

2月号 (No.366) クイズ当選者発表

東京都 砂本様	東京都 田邊様
東京都 井田様	神奈川県 前橋様
神奈川県 伊藤様	神奈川県 松澤様
東京都 菊入様	京都府 吉川様
神奈川県 近藤様	東京都 吉山様

前々回クイズの解答

正解は
① かまくら
でした。

問題 雪国で冬の風物詩と言えは固めながら積み上げていき、積み上がった中をくり抜いて作ります。さて□に入る言葉は何番でしょうか。

- お知らせとお願い**
- ★お米の交換は、お届け日から10日以内といたします。
(お気づきの点がございましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。)
 - ★ポイントの交換は、お米と一緒にご注文くださいますようお願いいたします。サービス品のみの発送には送料がかかりますのでご了承ください。
 - ★年間予約の変更等は、発送日の1週間前までにご連絡ください。
 - ★発送の受付締切り日時が、発送日の前営業日の昼12時までとなりました。昼12時過ぎからのご注文は、翌々営業日発送となりますのでご了承ください。
(注文当日の発送ができなくなりましたので、予め余裕を持ったご注文をお願いいたします。)
- ※ご不明な点がございましたら、営業時間内（8時30分～17時）0120-45-3388までご連絡ください。

編集後記

今年の大潟村の冬もだいぶ風が強く、田んぼに続く道路沿いの木がけっこう倒れてしまったようです。毎年数を減らして行くので、だんだん「林」から「木々」くらいになりつつあります。毎年同じ田んぼで見かけるトンビがいて、そのトンビの巣も木ごと倒れて壊れていたりしないかと心配していたのですが、田起こしを始めるといつものように飛来してきて、起こした土を掘って元気に食事を楽しんでいました。